

最新のトマト葉かび病抵抗性品種でも 葉かび病が発生する場合があります

トマト葉かび病に対して広く抵抗性のある遺伝子 *Cf-9* をもつ最新の品種において、本病の発生が県内で初めて確認されました。今後、葉かび病抵抗性品種を栽培している圃場でも、葉かび病が発生する場合がありますので、発生を認めた場合には速やかに防除対策をとってください。

1. 発生の概要

平成22年4月に苫田郡鏡野町の葉かび病抵抗性品種「CF桃太郎はるか」において、葉かび病の発生が確認された。発生圃場から採取した葉かび病菌を、葉かび病抵抗性品種「桃太郎サニー」及び「桃太郎ギフト」に接種したところ、両品種ともに発病を確認した。これらの品種にも発病する葉かび病菌のレース¹⁾は、平成19年に福島県で発生した事例が報告されて以降、群馬県、愛知県、三重県及び熊本県などから報告されている。このため、本県においても一部地域で *Cf-9* を持つ抵抗性品種を侵すレースが発生したものと考えられる。なお、同地域において、抵抗性遺伝子は不明だが葉かび病抵抗性とされているミニトマト品種「キャロル10」及び「レッドルビー」においても葉かび病の発生を認めている。

¹⁾ レース：品種に対する病原性が異なる病原菌の系統

2. 葉かび病菌のレースについて

現在、トマトには6種類の葉かび病抵抗性遺伝子が判明しており、国内ではそれに対応して9種類の葉かび病菌のレース分化が報告されている(表1)。県内で栽培されている最新の葉かび病抵抗性品種の抵抗性遺伝子は表2のとおりである。

表1 トマト葉かび病抵抗性遺伝子と国内レース分化(飯田、2009)

抵抗性遺伝子	葉かび病菌レース								
	0	2	4	2.4	2.9	4.9	4.11	2.4.11	4.9.11
なし	×	×	×	×	×	×	×	×	×
<i>Cf-2</i>	○	×	○	×	×	○	○	×	○
<i>Cf-4</i>	○	○	×	×	○	×	×	×	×
<i>Cf-5</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○
<i>Cf-6</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○
<i>Cf-9</i>	○	○	○	○	×	×	○	○	×
<i>Cf-4, Cf-11</i>	○	○	○	○	○	○	×	×	×

○：抵抗性、 ×：感受性

表2 県内で栽培されている最新の葉かび病抵抗性品種がもつ抵抗性遺伝子

種類	品種名	抵抗性遺伝子
トマト	C F 桃太郎はるか	<i>Cf-9</i>
	C F 桃太郎ヨーク	<i>Cf-9</i>
	桃太郎サニー	<i>Cf-9</i>
	桃太郎ギフト	<i>Cf-9</i>
	桃太郎コルト	<i>Cf-9</i>
ミディトマト	フルティカ	<i>Cf-9</i>
ミニトマト	C F 千果	<i>Cf-9</i>
	キャロル10	不明
	アイコ	不明
	レッドルビー	不明

種苗会社への聞き取りによる。

3. 病徴

最初、葉表に不鮮明な淡黄色の小斑点を生じ、やがて葉裏に灰黄色ないし緑褐色のビロード状のかびを密生する（図1）。病斑が拡大すると、菌叢も灰褐色ないし灰紫色に変わる。症状が進むと葉全体がかびで覆われ、激しい場合は葉が枯れあがる。レースや品種による病徴の違いはない。

なお、県内では葉かび病と病徴が類似するすすかび病（平成18年度 病害虫発生予察特殊報第2号参照）も発生しており、病徴による区別は困難である。顕微鏡観察による分生子（孢子）の形状で判別する（図1）。

4. 防除対策

- (1) 葉かび病抵抗性品種を栽培している圃場でも、葉かび病の発生に注意する。
- (2) 多湿条件下で発生しやすいので、換気に努める。
- (3) 肥料切れや着果負担による草勢低下は発病を助長するので適切な肥培管理を行う。
- (4) 感染から発病までの期間は2～3週間と長い。まん延後は防除が困難なので、初期防除を徹底する。
- (5) 農薬散布は葉裏にも十分かかるよう丁寧に行う。
- (6) 薬剤の感受性低下を防ぐため、同一成分及び同一系統薬剤の連続使用は避け、ローテーションで使用する。

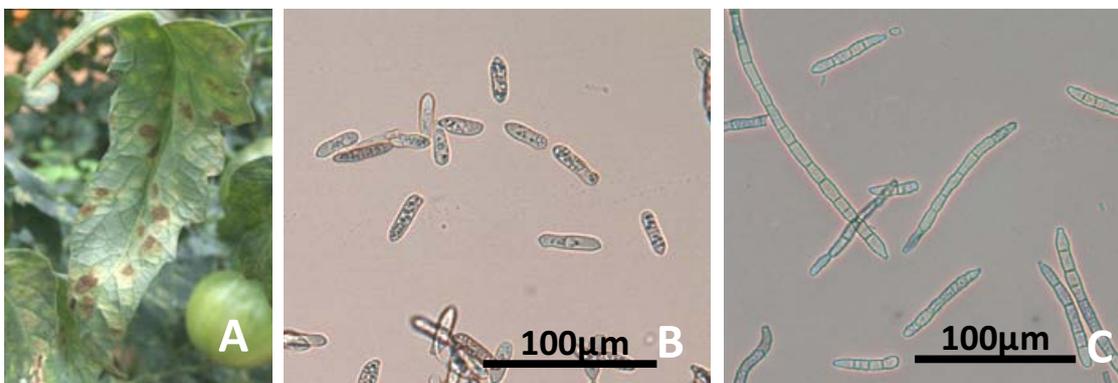


図1 葉かび病の病徴 (A) と葉かび病菌 (B) 及びすすかび病菌 (C) の分生子